

2012年度（平成24年度）第2回福山市入札監視委員会会議概要

1 会議名

2012年度（平成24年度）第2回福山市入札監視委員会

2 開催日時・場所

2012年（平成24年）9月28日（金）午後3時～午後4時
福山市役所議会棟3階 第5委員会室

3 出席委員

中山委員，相原委員，西原委員，小島委員，甲賀委員

4 出席した職員

市長部局

建設管理部長，土木部長，北部支所長，建築部長，契約課長，建設政策課長，技術検査課長，道路企画担当課長，北部建設産業課長，設備課長

上下水道局

経営管理部長，工務部長，工務部参与，施設部長，経理課契約担当課長，下水道建設課長，浄水管理課長

5 会議の概要

(1) 2012年度（平成24年度）の契約状況等について

契約課長から次のとおり説明を行った。

2012年8月末までに入札を行った工事の全体件数は196件で，その落札率は，84.93%，上下水道局発注分が112件で85.45%であった。福山市分については，2008年度と比較すると5.6ポイント増加，2009年度と比較すると2.4ポイント，2010年度とは6.3ポイント，2011年度とは1.2ポイント，いずれも増加している。上下水道局分については，2008年度と比較すると0.2ポイント，2009年度とは，2.4ポイント，2010年度とは，1.2ポイント，2011年度とは，2.5ポイントといずれも増加している。福山市分について，落札率が2008年度から上昇した原因としては，厳しい経済状況や雇用情勢に対応するため，企業の健全経営に配慮する観点から，2008年度以降，最低制限価格の算定基準を順次見直しを行ったことによるものである。本年度の落札率は，本年4月から最低制限価格制度を見直したことにより，昨年度より若干上昇するものと予測している。

(2) 抽出案件の審議

- ア 山手橋横取り架設工事（都市計画道路3・5・614号津之郷奈良津線）
- イ 道路改良工事（池尻高尾線）
- ウ （仮称）福山・府中地域救急支援診療所建設昇降機設備工事
- エ 箕島浄水場フロキュレータ取替工事
- オ 円形管理設工事（都市第24-20工区）

アからオについて，契約担当課長及び当該工事担当課長が，それぞれの工事について説明を行った。

(3) 入札及び契約手続の運用状況等についての報告

指名除外措置運用状況について、契約課長から取りまとめて報告を行った。

(4) 次回委員会の開催日時について

2013年（平成25年）1月下旬を目途に事務局で調整する。

(5) 次回委員会で審議の対象とする工事の抽出方法について

次回の事案の抽出は、2012年（平成24年）8月から11月分を対象とし、中山委員長が担当する。

6 発言の趣旨

主な質疑応答は、次のとおりである。

抽出案件の審議

ア 山手橋横取り架設工事（都市計画道路3・5・614号津之郷奈良津線）について

Q1 予定価格が390,600,000円と高いものの、1共同企業体しか入札に参加していない。工事の特殊性によるものか。事情を聞きたい。

A1 この工事は、土木一式工事で3億円以上であるため、本市の建設工事共同企業体取扱要綱の規定により共同企業体による発注とし、また、1億5千万円以上のため、本市の条件付一般競争入札事務処理要綱の規定に基づき、代表構成員は、同種・同規模の工事の元請としての施工実績を有する者、技術者についても一定の資格・経験を有する者とした。なお、市内業者については、この施工実績が確認できなかったため、代表構成員は、県内に本店、支店又はこれに準ずるものを有している者としたものである。発注に当たり、会社として同種・同規模の施工実績を有し、施工の経験のある技術者を有する者で代表構成員になることができる者は10数者程度を想定しており、入札参加者は一定数が確保されるものと考えていた。しかし、入札参加者が少なかったことについては、この工事は、多径間の鋼桁の上にコンクリート床版を設置した橋梁をジャッキアップし、4.5m横移動させるもので、橋梁自体の荷重も大きく、品質確保の点からも相当な技術力を要すること、交通の切り替えを4回行うなど、通行の安全確保の煩雑さがあること、また、配置予定の技術者の状況などを様々考慮する中で、このような結果になったのではないかと考えている。

Q2 橋梁をジャッキアップするということは施工が困難な工事ということか。

A2 荷重の大きい橋梁をジャッキアップし、本体と結合する横取り架設工法は相当な技術力を要するものである。

Q3 難しい工事だからたまたま1者の入札ということか。

A3 この工事内容での実績を有する技術者の確保等も関係したのではないかと考える。

Q4 東日本大震災による復旧工事の影響もあるのか。

A4 その影響によるものかどうかは把握していない。

イ 道路改良工事（池尻高尾線）について

Q5 道路改良工事（池尻高尾線）は道路改良工事であるが、他の道路改良工事（道路改良工事（福田74号線）、道路改良工事（万能倉17号線）、道路改良工事（下御領伊地線（3工区）））に比べて入札参加者数3と少なく、落札率は89.0%と高い。入札参加者数が少ない点と落札率が高い点について、何か事情があるのか聞きたい。

A 5 この工事は、施工箇所が福山市中心部から北に約20kmに位置するもので、工事関係車両の移動にかなりの時間を要し、施工の効率が悪いことなどの係りなどもあり、その地域内の者が施工条件をより把握しやすいため、手持ち工事などを勘案する中で、入札を行った結果、このような参加状況を生じているのではないかと考えている。今後の入札状況を注視したいと考えている。なお、この工事は、B地域のC及びD等級が参加対象者である。道路改良工事（福田74号線）、道路改良工事（万能倉17号線）及び道路改良工事（下御領伊地線（3工区））とは、参加対象が異なるものである。

ウ （仮称）福山・府中地域救急支援診療所建設昇降機設備工事について

Q 6 （仮称）福山・府中地域救急支援診療所建設昇降機設備工事と福山地区消防組合北消防署改築昇降機設備工事は、昇降機設備工事である。いずれも入札参加者数2・失格者数1で、同じ業者が落札している。前回である平成23年12月1日から平成24年3月31日までの発注工事では、昇降機設備工事が1件であり、入札参加者数2で、本件とは違う業者が落札している。前回、今回の入札・落札状況から、業者が順番で落札しているのではないかとという疑問が生じる。入札参加者数が極端に少ない点と有効な入札件数が1しかないことについて、何か事情があるのか聞きたい。

A 6 昇降機設備は、製造メーカーが独自のノウハウを有し、設計、製造、据付まで一貫し施工する必要があることから、県内に本店・支店を有する昇降機設備の製造メーカーであること、設備に不具合が発生した場合、人命に関わる場合も想定できることから、福山市内に保守体制の拠点を有し、緊急対応出来るよう、技術者を配置していることを入札参加資格とし、本市に機械器具設置工事の認定のある者を対象に発注した。設計から据付を行う昇降機設備の製造メーカーで、県内に本店・支店等を有する者で、今回の参加要件を満たす者は、市外業者では4者、市内業者では1者で合計5者程度と想定していた。入札参加者が2者となったことについては、配置予定の技術者の状況などを勘案するなかで、このような結果になったのではないかと考えている。また、2者のうち、1者が最低制限価格を下回り失格となったが、失格した1者は市内業者であり高い受注意欲から失格したものであり、一定の競争性は確保されているものと考えている。

Q 7 昇降機の工事は入札参加者数はいつも少ないのではないか。

A 7 一般競争入札とした2008年度からは、2者から5者で推移している。

エ 箕島浄水場フロキュレータ取替工事について

Q 8 箕島浄水場フロキュレータ取替工事は、予定価格が134,140,650円と高額である。それにもかかわらず、入札参加者数が2と少ないが、落札率は92%と今回最も高い落札率となっている。また、中津原浄水場酸処理設備設置工事も予定価格が241,211,250円と高額であるにもかかわらず、入札参加者数が3と少なく、落札率は91.4%と今回2番目に高い落札率となっている。

今回、落札率が90%を超えたものは、この2件だけであるが、いずれも同一業者による落札である。落札率が高くなっている点と入札参加者数が少ない点について、何か事情があるのか聞きたい。

A 8 この河川水を浄水処理するための機械装置の一つであるフロキュレータは、浄水場において特有かつ特殊な装置であり、プラントメーカーで製作したものを、現地で組立て・据付けを行うこととなり、また、稼働中の施設であるため、取り替えには、沈澱池の半分を空にして施工する必要があり、短期間に円滑で確実な作業が要求される。このため、入札参加資格として同種・同規模の工事の施工実績を求め、一般競争入札を実施したものである。また、中津原浄水場酸処理設備設置工事についても、浄水場に特有かつ特殊な装置であり、プラントメーカーで製作したものを現地で組立て・据付けを行うこととなり、原水に吹き込ませる部分の施工については、稼働中の施設を停止させての施工となるため、短期間に確実な作業が要求され、福山市の主力浄水場の浄水処理過程に導入する非常に重要な設備であることから、同種・同規模の施工実績を求めるとし、一般競争入札を実施した。一般競争入札において入札業者が少なく、また、落札率が高くなった理由については、浄水場における特有かつ特殊な装置であること、稼働中の施設に対して短期間に施工する必要があることから、技術力を要する工事であり、技術者の経験や知識が必要となることから、このような結果になったものではないかと考えている。

Q 9 フロキュレータの耐用年数はどれくらいか。

A 9 固定資産としては税法上15年くらいで償却するが、箕島浄水場は点検・修理を繰り返し34年使用している。

オ 円形管理設工事（都市第24-20工区）について

Q 10 円形管理設工事（都市第24-20工区）は、円形管理設工事である。他の円形管理設工事に比べて入札参加者数が4と少なく、落札率も88.9%と高い。入札参加者数が少ない点と落札率が高くなった点について、何か事情があるのか聞きたい。

A 10 入札参加者が少なく、落札率が高かった要因としては、道路の幅員が2.5m程度と狭いため、小型の機械による施工になること、また、掘削深さが深く、土質が軟弱であることから軽量鋼矢板による土留工と掘削断面内に2段の支保工の設置が必要であること、さらに、工事予定道路に沿って水路があるため、地下水位が高く、掘削断面内に浸入する地下水をポンプで排水しながらの工事となることなど、下水道工事に関する経験と技術力が必要であることなどの関わりがあったのではないかと考えている。また、その地域内の者が施工条件などをより把握しやすいため、手持ち工事などを勘案する中で、入札を行った結果ではないかと考えている。